

---

# 恋文\*?

春樹\*

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

恋文\*

### 【Zコード】

Z4935Z

### 【作者名】

春樹\*

### 【あらすじ】

女装家。恋江 玲太は、自分より可愛くない人を女と認めない。  
そんな玲太に新しい風が吹き込み始める。

## ～始まり～

なあ、玲歌。アタシの気持ちを聞いてくれよ。  
これまでのこと全部振り返って、全部の思いを伝えるからだ。

アタシの名前は恋江 玲太。

名前で気づくかもしれないけど、アタシは男だ。

一応言ひこねくナビおかまじやない。

男に興味があるわけでもない。

単なる女装家だ。

だから、普通の女子のこと好きになるし、彼女がいたことだってある。

そんな普通の男だったアタシが女装なんかしてる理由は簡単。

ただ

可愛いから。

昔から街を歩いてて女に間違えられることがよくあった。

何もしないでも女に間違えられて

ナンパされて

男だって言つても信じもらえないくて

それが苦しくて

ある日ある女子に

「私より可愛い玲太くんなんか、ほんとに女の子になつちゃえば？」

つて言われたことをきっかけに、アタシは女装をはじめた。

多分・・・絶対。

アタシより可愛いヤツなんかいねえ。

つこでに言つとアタシより可愛くないヤツは女じゃない。

つまり、この世に女なんていねえ。

今のことわざ

「おはよう玲太！！」

鈴宮剣都だ。

「ねせよん」

「いや、その色仕掛け俺にはそろそろ通用しないからね？」

「あ、やつぱつへやつこねばれ・・・・」

男友達との他愛もない会話。

アタシ、恋江玲太は正真正銘の男。

アタシのルックスはそちらぐんの女子なんかと比べ物になんないくらい素晴らしい素晴らしい。

密かにファンクラブとかもあるとかないとか

「玲太くん、今日転校生くるつーーー」

「男?女?」

「女の子だよ」

「嘘つか。」

「え?」

「普段から言ひしんでしょ?アタシより可愛くないヤツは女じやね

え」

「あ、それがね…めっちゃ可愛いいらしこよ…。」

「へー。期待しないで待ってるわ~」

女子が言つ可愛い女の子は当たにならないからなwww

キーンゴーンカーンゴーン

「ほらみんな席につけー」

ガタガタッ

担任が入ってきて、みんなが慌てて席につきはじめる。

それに合わせてアタシも席につく。

毎朝まったく変わらない。

なんのスリルもない。

いつもビーリの朝。

転校生が来たって、きっと何一つ変わらない。

でもそれはきっと

アタシが変えようとしたしないから。

「みんな知ってるかもしねないけど今日は転校生がきます」

わあわあ・・・

「はい先生！男ですか女ですか！？」

質問や歓声が飛び交う中

先生は

「静かにじるおーー静かにしないと転校生呼ばないぞー。」

言った。

途端に教室は静まり返った。

転校生を呼ばないなんて無理があるだろ

アタシはもう思いつつも黙った。

「よし。いいだらう。入れ

「はー

高くて澄んでいるが緊張しているのか、若干震えた声が

ドア越しに教室中に響き渡る。

ガラガラ・・・

ゆっくりと開き始めたドアの隙間から見える細くて白い指。

ドアが少しずつ開いていき、転校生の姿も徐々に見えてきた。

「加奈島 玲歌です。」

転校生、加奈島 玲歌はハツキリ言って超可愛い。

というよりも美人に近いのかもしれない。

日本人離れしている。ハーフ・・・なのか？

おとなしそうだが、やっぱり高校生というか無邪気さもあって

典型的な美少女だ。

クラスの男子が騒がないはずがない。

でもアタシは黙つた。

黙つてその美少女を見つめた。

というよりも睨みつけたに近いかかもしれない。

アタシの方が可愛いに決まってるけど

クラスの視線が一気に降り注がれている加奈島 玲歌が羨ましかった。

「私はこう見えて、普通に日本人です。気軽に話しかけてね」

明らかに日本人離れした美しい顔立ち。

これが日本人だなんて思えない。

「これからよろしく」

自己紹介代わりの軽い挨拶が済んだあと

先生はアタシの隣の席に促した。

「よひしぐね」

加奈島 玲歌が言った。

「ああ、よひしぐ。アタシは恋江玲太。こんななんでも一応男だから」

アタシはどや顔をキメた。

「へえ、仲良くしてねーえつと・・・玲太くんへへ」

加奈島 玲歌は驚くどじろか二口二口しながら仲良くしてね！なんて言いやがった。

アタシは拍子抜けした。

加奈島 玲歌・・・おもしろいヤツだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4935z/>

---

恋文\*?

2011年12月16日20時55分発行